

地下鉄短信(第227号)平成28年2月2日発行

編集 (一社)日本地下鉄協会 責任者 向田正博

電話 03-5577-5182(代) FAX 03-5577-5187



記事○「平成28年 講演会」(主催;一般社団法人日本地下鉄協会)を開催

○「平成28年 講演会」を開催しました。

去る1月25日(月)16時から、東京都千代田区麹町の「弘済会館」において、「高度自動化がもたらすものと求めるもの～交通分野における人と機械の共生に向けて～」というテーマで、国立大学法人筑波大学の副学長・理事である稲垣敏之氏を講師にお招きし、(一社)日本地下鉄協会主催の「平成28年 講演会」を開催しました。



講師の稲垣筑波大学副学長

昨年、協会が6年ぶりに開催した講演会が好評であったことから、前年に引き続いての開催でしたが、協会関係者、関係団体等から約160名を超える多くの参加を得ることができました。

当協会副会長の塩見清仁氏(東京都交通局長)による主催者挨拶に引き続き、稲垣筑波大学副学長の講演が行われました。

稲垣先生は、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)「自動走行システム」推進委員会・システム実用化WG主査や、国土交通省自動車局の「第5期先進安全自動車(ASV)推進検討会」副座長を務めるなど、人間と機械の共生系(ヒューマンマシンインターフェースの設計・評価等)分野の第一人者で、近年技術開発が進められている、交通分野の高度自動化に伴う課題について、ご講演いただきました。

講演は、既に高度自動化が進んでいる航空分野、現在技術開発が進められつつある自動車を例に、自動化されたが故に、操作する人間との間に生じる様々な事象と、その要因等を、資料を用いてわかりやすく解説していただきました。



航空では、離陸時を除いて運航の殆どの時間が自動操縦されており、ヒューマンエラーによる事故の激減など、自動化が安全性の向上に貢献している反面、パイロットが状況認識を行うことが困難になり、人と機械が対立した操作を行うなど、新たな問題も生じているとのことでした。また、自動車に関しては、自動運転のためにセンサーの補足している情報とドライバーが見ている情報が異なる場合や、情報は共有していても、操縦方針の相違等により自動車のコントロールに障害が発生する可能性があることなどを、先生の実体験等を交えてお話しされました。

鉄道の自動化に関しては、自動車ではドライバーが直接自動運転のメリットを享受するのに対し、鉄道では乗客として自動化のメリットが直接目に見えない中で、自動化に伴って発生しうる問題点との間のトレードオフが、評価・判断のベースとなること



超満員の会場

ことから、鉄道の自動運転の選択には、さらに検討が必要であるとの見解が示されました。

最後に、稲垣先生からは、鉄道における自動化には課題が多いが、検討が必要であることと検討に際しての支援・協力を申し出られて、講演を締めくくられました。

このように、稲垣先生においては、最先端の技術的課題である高度自動化というテーマについて、豊富な資料と具体的な事例を踏まえて、詳しくわかりやすくお話しされ、超満員の参加者は、終始熱心に聴講していました。

こののち、当協会関係者の多くの方々が参加し、国や関係団体の方も交えて意見交換会が催されました。

平成 28 年度「児童福祉週間」の標語

【入選作品】

だれだって になりたい自分に なれるんだ (岸本 葉奈 5歳 香川県)

(注) 必要に応じ、社内へ転送、回覧などをお願いします。

配信先を変更又は追加した方がよい場合は、新しい配信先の職名、氏名及びメールアドレスをお知らせ下さい。

本短信について、ご意見をお寄せ下さい。

連絡先: mukaida@jametro.or.jp